

令和5年度 都城市立菓子野小学校 学校評価報告書

※4段階評価（4：期待以上 3：ほぼ期待通り 2：やや期待を下回る 1：改善を要する）

評価項目		評価指標等	方策・手立て	学校の自己評価（学校職員）		学校関係者評価（学校運営協議会委員）	
				評価	結果の考察・分析及び改善策等	評価	本年度の学校評価に対する意見等
基礎学力の向上	① 基礎的・基本的学習内容の確実な定着	○ 全国学力学習状況調査・県学力状況調査等での成果アップ ○ 単元末テスト、学期末テスト等での目標達成	○ 学習訓練の徹底 ○ 主題研究を通した学び合う学習の研究、充実 ○ 各種学習状況調査の結果の活用 ○ スキルタイムの充実 ○ 授業改善、指導法の改善及び個に応じた指導の充実	3	○ 1人1授業やICTの実践発表など教師の授業改善から学力の向上を目指して研修を継続的に行うことができた。今後は、児童の実態を踏まえ、子どもたちが主役になる（主体的・対話的で深い学び）授業の実践も具体的に行っていきたい。 ○ 児童の読書意欲に関しては、図書館サポーターとの連携や朝の読み聞かせなどを計画的に行うことで高まってきている。年間貸出冊数の3000冊の目標を達成することができた。ただ、保護者の評価で家読やノーメディアの評価が低く保護者評価「基礎学力の向上－5」家庭での読書習慣の定着までには至っていない。 ○ 家庭学習についてのアンケート結果では、児童と保護者、教師の評価に少しずれがあるので、家庭学習の内容などを考えていく必要がある。	3	○ 落ち着いた学習の様子で、主題研での研修を通して、学習指導法の研鑽を継続してほしい。今後、子ども達の「主体的・対話的で深い学び」を実践されていく中でも、一人一人を大切にす る授業であってほしい。また、個人差も大きいと思われるがし っかり定着を図って行ってほしい。 ○ ICTの学習指導も大変だと思うが、先生方の努力や工夫が伺 える。 ○ 図書館サポーターとの連携による工夫された図書館運営が実践 され、子ども達が読書に親しんでいる。読み聞かせでも興味をも って聞いている。「子どもの読書意欲の向上」が図られて いると感じる。一方、例年保護者の評価が低い。子どもの読書意 欲が低いというより家庭での読書の機会が少なくなっているの ではと感じる。 ○ 本は借りるが、習い事や塾等があって家で本を読む時間がない のではないかな。 ○ 家読、ノーメディアの実践については、評価が低くなっている。 アンケート結果とともに、家読、ノーメディアの必要性について さらに保護者への啓発が必要だと感じる。PTAとも連携し、「家 庭学習の充実」を目標に、課題も明らかにし方策を検討していく ことが必要である。
	② 読書活動の推進	○ 児童の読書意欲向上 ○ 読書の質の向上 ○ 読書習慣の定着 ○ 読み聞かせの全学年実施	○ 図書館教育の充実 （図書館サポーターとの連携） ○ 読書活用の工夫と意欲付け ○ 読み聞かせグループとの連携				
	③ 家庭学習の充実	○ 家庭と連携した家庭学習の習慣化 ○ 家庭での家読の実施 ○ ノーメディア取組の推進	○ 「家庭学習の手引き」を活用した指導の徹底 ○ 懇談会等での保護者への啓発 ○ 家読の啓発 ○ ノーメディア週間の実施				
豊かな心の育成	① 道徳教育の充実	○ 思いやりの心の醸成 ○ 「特別の教科道徳」の実践 ○ 環境美化の推進 ○ 花栽培による心の育成	○ 道徳の時間の指導の工夫 ○ 心のプレゼント運動、善行児童の推薦紹介と称賛 ○ 職員研修の実施 ○ ボランティア活動、一人2植え活動の実施	3	○ 保護者や地域の方に道徳の時間を参観してもらったり、計画的に実践したりすることができた。今後も全教育活動を通して命を大切する心を醸成していきたい。 ○ 元気のよい挨拶、無言清掃、きまりや約束などができていると答えている児童が多い。特に朝のあいさつがよくできているので、次年度も継続してできるように指導していく。 ○ 毎月「心のアンケート」を行い、児童の困り事を早期発見し、適切な対応をすることができた。 F I F委員会では、今後も児童の細かな変化について、職員間で情報を共有したり関係機関と連携したりして問題への迅速な対応をしていきたい。	4	○ 全教育活動の中でさらに心を育てて欲しい。道徳の時間の内容や子ども達の考えなど家庭とも共有し、家庭でも話題にできるといいと考える。 ○ スリッパの並べ方など普段よりすばらしい行いが豊かな心の育成に繋がっていると思う。 ○ 基本的な生活習慣については、自己評価も高く身についているのではないかと考える。ボランティアなどで学校に行った時など元気なあいさつの姿が見られたので今後も継続して欲しい。 ○ 充実した学校生活には、一人一人の子どもの心の安定が必要である。取組を継続して欲しい。子ども達のアンケート結果も楽しく「笑顔いっぱい」で過ごしていると答えており、これからもそのような学校生活であってほしい。 ○ 笑顔で心のこもったあいさつをするので気持ちがいい。 ○ 毎月の「心のアンケート」は書くことができる児童はいいが、書けない児童には気になる事項である。今後も続けて欲しい。
	② 基本的な生活習慣の徹底	○ 規範意識の高揚 ○ 菓子野っ子よい子の1日の活用 ○ 気持ちよい挨拶や正しい言葉遣い ○ 無言移動、無言清掃	○ 全職員の共通理解と共通実践・指導の徹底 ○ 学級活動、日常指導の工夫 ○ 各清掃場所での無言清掃の指導の工夫				
	③ 人権教育の充実	○ お互いを認め合う心の育成 ○ いじめ・問題行動等の発生防止	○ 全校・異学年交流の実施・集会活動・清掃活動 ○ アンケートによる実態把握、教育相談、F I F委員会の実施				

評価項目		評価指標等	方策・手立て	学校の自己評価（学校職員）		学校関係者評価（学校運営協議会委員）	
				評価	結果の考察・分析及び改善策等	評価	学本年度の学校評価に対する意見等
3	健康 安全 教育の 推進	① 体力向上プランの確実な実施	○ 運動に取り組む環境の整備 ○ 体力テストの結果	3	○ 体力テストの結果では、男子が48項目中31項目、女子が27項目で全国平均を上回り、昨年度よりもよい結果が出た。握力や立ち幅跳びの結果がやや低かったので今後も体育指導での運動量の確保や外遊びの推奨に努め、全国平均を上回る項目を増やしていきたい。 ○ 緊急事案等については、メールを活用して迅速な情報の提供を行った。特に、突然の天候の変化による迎えの要請で活用することもあった。今後は感染症の状況などできる範囲で発信していきたい。 ○ 「弁当の日」は全児童が各家庭で意欲的に取り組むことができていた。	3	○ 体力テストの結果が全国平均を上回っていることがすばらしいと思う。 ○ 握力や立ち幅跳びの結果がやや低いということだが、日常生活や遊びの中でも意識して使うことが少ないのではと思う。日常生活や遊び、体育の時間の一部に握力や立ち幅跳びにつながる遊びや運動を取り入れたり、紹介したりする工夫があるといいと思う。 ○ アンケート結果から「早寝・早起き・朝ごはん」は、習慣化されているようだ。教育活動の土台となるもので、しっかりと継続してほしい。家庭との連携が必要である。 ○ 今回の能登地震を受け、さらに自分事として、防災意識を高めていく必要がある。全体の避難訓練も場面設定を変えたり、学級指導や日常指導の中で学年に応じてより具体的な指導を行ったりするといい。 ○ 忙しいが朝食は、しっかり食べているのか心配なところもある。給食は、残さず食べて欲しい。
		② 健康安全教育の充実	○ 「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣化 ○ 防災体制の見直しや整備による安全確保 ○ 緊急時等の連絡体制整備				
		③ 食に関する指導の推進	○ 「子どもがつくる弁当の日」の実践 ○ 給食指導の充実				
4	ふるさと 学習 推進	① 地域の教育資源の積極的な活用	○ 地域と関連させた総合的な学習の時間「きらめきタイム」の充実 ○ 伝統芸能の継承	3	○ コロナの制限もなくなり、地域の素材を生かした学習に十分取り組むことができた。次年度は、芋や稲の日々のお世話などが課題である。 ○ 読み聞かせボランティアを計画的にしてくださり児童の読書意欲の向上や落ち着いた気持ちで学校生活を送ることにつながっている。 ○ 地域の人材や保存会の協力をいただきながら、俵踊の伝承活動を継続することができた。ふるさと祭りでは、地区と学校の合同で参加するなど新たな取組ができてよかった。 ○ 学校だよりやホームページの更新、新聞投稿など保護者及び地域への情報発信を積極的に行った。新聞投稿では、地域の方や読者から共感や励ましの声を頂くなど児童の自信と学校の大きな励みとなっている。	3	○ 今後も地域素材や人材とのかかわりを継続してほしい。活動にあたっては、一人一人が自発的な課題や目標などをもって取り組めるといい。 ○ 野外研修等色々取り組んでいる様子が伺えるので多くの感動を感じて欲しい。 ○ 学校での活動がさらに地域へと広がるといい。 ○ 他校では、児童から伝承活動を学んでいるところもあると聞いた。後継者の心配が少なくなると思う。 ○ ホームページ、新聞投稿など積極的に情報発信が実践されていた。新聞投稿は、地域の方々も喜ばれると思うので今後も継続してほしい。 ○ 地域の人財をもっと掘り起こして有意義な活動ができ、また地域の活性化にもつながるといいと感じる。 ○ 読み聞かせボランティアや地域の協力団体との連携が密に行われている。伝統文化との関わりも深い。
		② 地域や各関係機関と連携した体験活動の実施	○ 学校支援ボランティア組織の活用 ○ 各関係機関と連携した体験活動 ○ 地域行事への積極的参加				
		③ 教育活動の外部への情報発信・共有化	○ 学校だよりの発行 ○ ホームページの充実				
5	信頼される学校づくり	① 教職員の資質向上 ② 家庭・地域との連携・協働 ③ 学校運営協議会の充実 ④ 小中一貫教育の充実	○ コンプライアンスの遵守 ○ 家庭・地域との密な連携 ○ 地域と連携した防災 ○ 学校運営協議会を活用した実践 ○ 庄内地区小中一貫教育、幼保小連携の推進	3	○ 学校不祥事を未然に防ぐために、コンプライアンス研修を定期的に行い、職員の意識の高揚を図る。 ○ 参観日や学校行事などの案内を、学校運営協議会委員の方々に積極的に行うことで、学校と学校運営協議会との情報の共有化を図る。 ○ 小中一貫教育での共通実践事項を家庭にも周知し実践していく。	3	○ 様々な課題解決やさらに働き方改革と学校職員の取組は、多岐にわたり大変だと思うが、職員も心身の健康が第一である。十分に気を付けて学校づくりに励んで欲しい。 ○ 小中一貫教育については、学校間、職員間では推進されていると思うが、さらに実践を充実させるためには、保護者への情報発信も必要となる。 ○ 学校運営協議会への情報公開や開かれた学校づくりに努めていることが伺える。

次年度方向性	
○ 子どもたちが主役の授業「わ・さ・び」の実施とそれに伴うＩＣＴの活用 ○ 命を大切に作る心や態度の育成	○ 児童の読書意欲の向上（図書館サポーターや読み聞かせボランティアとの連携） ○ 保護者や地域との連携・共働と学校からの情報発信の充実